

① 医師・ 医療技術職編

びわこ学園は病院機能と福祉機能を併せ持った法人であり、多様な職種の職員が利用者支援に携わっています。今年もそれぞれにびわこ学園で働く中で感じていることを綴っていただき、職種ごとでまとめさせていただきました。

1年目のときは、目の前のことにとにかく必死な日々だったような気がします(今でも焦っていますが(笑))。

先輩と利用者さんのやり取りを見て、利用者さんの瞬きや口の動きだけでなぜ意思疎通がとれているのだろう?と不思議に思うこともありましたが、今ではなんとなく分かるようになってきました。

また、利用者さんたちからは、多くのことを教わっています。色んな視点が必要で、自分だけの見え方だけでなく、他の人にはその人がどう見えているのか聞けることでその人の生活の幅が広がることも感じています。

リハの中だけでは短時間しか関われないからこそ一回一回大切にしつつ、たまには着ぐるみを着て利用者さんにも職員にも非日常も感じてもらい、その人の日常が当たり前のものだと思う、後悔のないよう日々を積み重ねていきたいと思っています。



(中村 瞳吾・理学療法士・4年目)
びわこ学園医療福祉センター草津



私は常勤の整形外科医として医療部に所属しています。それまでは小児整形外科医として10年程度の間、外来診療、手術やリハビリテーションの診療経験がありました。

当初は利用者の方々が、様々な疾患を抱えながらも人生の最後まで安心して過ごせるようサポートするには、整形外科の経験だけでは不十分でした。この学園で行われるカンファレンスは、他科の先生に限らず多職種のみなさんの意見や協力が得られるので、私にとってはわからないことや足りないところを教えてもらえる、とてもありがたい環境でした。そして少しずつ経験を積むことができ、気が付けば6年が過ぎていました。

今では野球部にも所属しています。これからもよろしくお願いします。

(原田 有樹・医師・医療部長・6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲



センター草津の心理判定員として再就職をして6年目となりました。

今改めて感じているのは、これが正解と言い切れないことに対し続ける力の大切さです。

心理士の業務の中核は利用者さんの姿を発達的な観点から見立てるのですが、発信する力が弱かったり持っている力を発揮しづらかったりする場合、発達心理学の知見をそのまま適応できないことが多々あります。また、一旦発達の評価をさせていただいても、本当に利用者さんの思いや願いに沿った支援に繋がるものを出せているのか悩み続けることもあります。わからないことを抱えながら利用者さんに寄り添っていくこと…「正解」というゴールが見えづらいからこそ共感力や知ろうとする姿勢が試されるように感じます。これからもゆっくりと丁寧に、利用者さんから学びながら成長していきたいと思っています。



(長谷部 昌子・心理判定員・6年目)
びわこ学園医療福祉センター草津



びわこ学園に理学療法士として入社してから、早くも6年目を迎えることとなりました。この節目にあたり、これまでを振り返らせていただきたいと思っています。

年数を重ねる中で、多くの発見がありました。その中でも、利用者さん一人ひとりの笑顔や小さな成長を目の当たりにすると、この仕事を続けてきて本当に良かったと感じる瞬間が何度もありました。

また、日々変わらずに過ごされていた中での急変をされた方・徐々に体調が不安定になった方も多く、たくさんのお別れを経験しました。お別れをしてきた方々のことを思って、悲しい気持ちと共に、「皆さん一人ひとりがかけがえのない存在であり命は尊い。利用者さんのために自分にできることをやろう。」と心がけています。

これからも、利用者さんが少しでも豊かな生活を送るお手伝いができるよう、皆さまに寄り添いながら、より良い支援をしていくことを目標としていきます。

(根木 瑞樹・理学療法士・6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲

私が入職した頃はコロナ禍だったため面会や外出がない状況でした。3年
が経ち面会や外出が再開してきた中で、利用者さんのびわこ学園での暮らしを感じ
ることができてきました。

学園の中で過ごすことが多い利用者さんにとってご家族が面会に来られることで笑顔
になれることが多く、喜んでおられる姿をよく拝見します。外出するときには看護師
として同行させてもらい、普段見ない景色や食べないものを感じてもらえたことは、こ
の職場でのやりがいに思いとても嬉しかったです。

これからも利用者さんのびわこ学園での日々が少しでも豊かになるような、生活に携
われる看護を行っていきたいです。



(東野 航太・看護師・4年目)
びわこ学園医療福祉センター草津



(青西 智紀・看護師・6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲

センター野洲に就職して丸5年が経ちました。

1年目の頃を振り返ると、なかなか仕事に慣れることができませんでした。新卒で就
職し、びわこ学園が初めての職場ということもあり、最初は緊張していたと思います。

今やっていることの次に何をしたら良いか考え込んでしまい、ただ立ち尽くしてし
まっていたことを思い出します。

そんな中でもチューターの方や先輩方にたくさん助けていただきました。また、同期
とのご飯会は良い気分転換になり、余裕がなかった1年目の自分の活力になっていまし
た。

今の自分があるのも、たくさんの人の支えがあつてのことだと思います。そのような
環境に感謝しながら、6年目の今でも初心を忘れずに頑張っていきたいと思います。

センター野洲第2病棟に看護師として就職して6年目になります。私は以前、生活支
援員として働かせて頂いていた時期がありました。当時は何もわからず、利用者さんの
訴えを聞き取るのが難しく、何度も何度も聞き直して利用者さんに迷惑をかけていまし
た。

それでも一生懸命に私に自分の想いを伝えようとしてくれる利用者さん達の姿に、と
ても心を打たれたのを思い出します。

言葉だけではなく、身振り手振りや目の動きなどを通して利用者さんの想いが伝わっ
てきたと感じる時や、その時に見せてくれる純粋な笑顔を見ると、この仕事をやってい
て良かったなと日々感じます。

利用者さんの高齢化に伴い様々な健康面の課題や生活の変化がありますが、看護師と
して利用者さんの想いや価値観を大切にしながら健康と生活をサポートさせて頂きたい
と思います。



(神戸 僚斗・看護師・6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲



(向井 朋子・看護師・4年目)
びわこ学園障害者支援センター

初めてびわこ学園に就職した時は、まだまだ未熟で、わからないこと・できないこと
ばかりで数年で学園から離れるという結果に…。一般病院で働いてからも「最後に働
くなら、もう一度びわこ学園の仕事に携わりたい」という思いもあり、「ちょこれ一
と。」に再就職することを決意。それからあつという間に正規職員4年目を迎えました。
“本人さんはどう思っているんやろ”と考え、模索することも多く、いまだに訪問
に行くとき緊張の汗が流れる私ですが、利用者さんの笑顔や、ご家族さんのやさしさに触
れると、自然と笑顔になり、元気をもらっています。

これからも利用者さんやご家族・家族に支えてもらいながら、利用者さんやご家族に
寄り添える関りができるよう、精進していきたいと思います。

③生活支援員編

びわこ学園で働き始めて早10年が経ちました。

以前の職種は営業職で、福祉業界での経験が無かったので、初めの頃は慣れない仕事でまさに無我夢中でした。そんな中、日々の介助や何気ない関わりを通じて利用者さんから「ありがとう」と言われたり、言葉が無くても「穏やかないい表情」をされる。こんなにもダイレクトに素直に気持ちを伝えられるか・・・と驚かされたのと、それは私にとって大きなやりがいにも繋がりました。

各々の利用者さんがその人らしい生活を送れるように、「本人さんはどう思っているんやろ」と問いかけながら関わってきました。利用者さんが楽しみのある、豊かな生活を送れるように！そのためには私自身が利用者さんとの関わりを楽しみながら、今後も支援していきたいと思えます。



(栗津 一博・生活支援員・11年目)
びわこ学園医療福祉センター草津



びわこ学園に入職し、センター野洲第3病棟に配属され早6年が過ぎました。その前に2年間臨時職員として第2病棟でお世話になりました。

その間たくさんの利用者さんとの出会いと別れがありました。関わりに悩み、葛藤しながら利用者さんと過ごした日々でした。

その中で利用者さんとの関係が少しずつ構築され「占部さ～ん散歩行こう～」「占部さんとお手伝い行く～」と言われた時には涙が出るほど嬉しかったです。

これからも泣いたり笑ったりしながら利用者さんの生活に向き合い、共に月日を重ねていきたいと思えます。

(占部 知美・生活支援員・6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲

大学卒業後、滋賀に住まいを移して今年で16年目になります。大学生の時に、映画館で偶然観た「わたしの季節」という作品で、びわこ学園の存在を知り、なんか面白そうな場所だなあと興味を持ちました。その後大病を患い休学し、療養期間に生きることに一人をよく考えていたのですが、その時にびわこ学園で生活する人々の事を思い出していました。自分が知りたいことはここにあるのかもしれないと勢いだけで飛び込み、障害福祉の世界は発見と驚きの連続で、毎日が慌ただしく過ぎていきました。だけど出勤時はいつも「今日も〇〇さんと会えるなあ」と思いながら職場に向かっていました。今思えば出会った人たちに支えてもらう部分のほうが大きかったと思えます。生きること、生活すること、その答えは未だ分からずではありますが、今後も考え続けながら一つ一つの出会いを大切に、生きていきたいと思っています。



(片岡 明子・相談支援専門員・4年目)
知的障害児者地域生活支援センター



皆様初めまして。今年の4月からケアホームともとの所属となりました、松本吏世と申します。以前はセンター野洲の第3病棟で勤務しておりました。利用者さん方、職員さん方に支えられたお陰で、無事4年目を迎えることが出来ました。入職してからの事を振り返ると、様々な思い出が溢れかえってきます。入職したての頃は業務や利用者理解など、覚えたり勉強したりと大変でした。しかし辛い時、大変な時はいつも先輩方が相談に乗って下さり救われていました。利用者さんの笑顔を見るとやる気に満ち溢れ、頑張ろうと思うことができました。一番印象に残っている事は、利用者さんの不穏な様子が続いた時に、どうしたら利用者さんが安心できる生活が送れるようになるかをグループで考え、病棟全体で共有し、取り組んだことによって利用者さんが穏やかに過ごすことが出来るようになりました。この時私はやりがいを感じる事ができ、利用者理解

の大切さを学ぶことが出来ました。病棟での経験を活かし、ケアホームともでも、利用者さんに寄り添った支援をしていきたいと思えます。次なる目標はダイエットで20kg痩せる事です。一読ありがとうございます。

(松本 吏世・生活支援員・4年目)
びわこ学園障害者支援センター